

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 芥川高校がめざす学校像は『豊かな人間力とグローバルな視点で、自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒を育てる学校』。
- 1 自ら考え行動し、自律的・主体的に学びに向かい進路を切り拓く力を持った生徒の育成
 - 2 自己肯定感を高め他者を尊重する態度を養い、高い規範意識と人権意識を備えた豊かな人間力を持った生徒の育成
 - 3 多様性や異文化を理解する態度を備え、豊かな教養とコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな視点で考え社会に貢献できる力を持った生徒の育成

2 中期的目標

1. 自ら考え行動し、自律的・主体的に学びに向かい進路を切り拓く力を持った生徒の育成
- (1) 学力の向上（授業力向上）
- ア：生徒が確かな学力を身につけ、好奇心を掻き立てられる授業となるように、教職員がいつでも、どこでも、だれとでも相談できる環境づくりと組織的な取り組みを推進する。
- イ：言語活動を充実させ、主体的かつ論理的に自己を表現する思考力、判断力を養う。ICT 等をより効果的に活用し、生徒のより主体的で深い学びを追求する。
- ウ：観点別学習状況の評価（観点別評価）により指導と評価の一体化をすすめ、生徒が自ら学ぶ力を高める。
- ＊授業アンケートの授業満足度は、今後も満足度 85%以上の維持をめざす。(R4：85.7% R5：86.6% R6：88.2%)
- (2) 希望進路の実現
- ア：望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路を選択できる力を育むキャリア教育を推進する。
- イ：「学力生活実態調査」等のデータを活用し、一人ひとりが希望進路に向けて頑張りきれよう、きめ細かい進路指導を行う。
- ＊生徒向け学校教育自己診断における進路指導への満足度 90%以上を維持する。(R4：87.9% R5：90.7% R6：94.6%)
- ＊希望進路達成率は今後も 85%以上を維持する。(R4：89.3% R5：88.4% R6：87.0%)
2. 自己肯定感を高め他者を尊重する態度を養い、高い規範意識と人権意識を備えた豊かな人間力を持った生徒の育成
- (1) 体験学習の充実
- ア：保育園実習等を通じて、福祉ボランティアに関する学びとキャリア意識の醸成を図る。
- イ：地域や外部の諸機関と連携した体験活動の充実を図る。
- ＊生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりに対する肯定率を令和 9 年度には 85%とする。(R4：66.6% R5：75.0% R6：83.4%)
- (2) 学校行事、部活動の振興
- ア：学校行事を通して自ら考え主体的に行動し協働する力を養う。また、地域とつながる機会とすることにより、生徒のシティズンシップを育む。
- イ：部活動の入部率及び定着率を高め活性化を図るとともに、メリハリのある活動により学習との両立を図る。
- ＊部活動加入率（6 月集計）75%を維持する。(R4：74.5% R5：73.6% R6：79.6%)
- (3) 規範意識の醸成
- ア：身につけさせたい規範意識を教員間で共有し、全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底する。その指導がめざすところを生徒に説明し理解させ、主体的にルールやマナーを考え、守ることができるように導く。
- イ：あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図り、学校を「皆が安心して生活できる場」となるようにする。家庭とも連携し、身の回りの人を尊重し、挨拶がしっかりとでき、時間を守ることができる生徒を育成する。
- ＊生徒向け学校教育自己診断における規範意識に関する設問の肯定率は、今後も 95%以上を維持する。(R4：92.2% R5：94.5% R6：96.5%)
- ＊教員向け学校教育自己診断における生徒の規範意識に関する設問の肯定率を、令和 9 年度には 70%とする。(R4：60.7% R5：57.1% R6：61.7%)
- (4) 人権意識の向上
- ア：すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にし、大切にされる人権教育を推進する。
- イ：生徒と教職員がお互いに、お互いを尊重し、共に学び、学校全体として人権意識を高める取り組みを実施する。
- ＊生徒向け学校教育自己診断における人権教育に対する肯定率 88%を維持する。(R4：84.2% R5：91.9% R6：91.5%)
3. 多様性や異文化を理解する態度を備え、豊かな教養とコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな視点で考え社会に貢献できる力を持った生徒の育成
- (1) 使える英語力の育成
- ア：大学等の外部機関との連携により、「グローバル専門コース」の取り組みの継続・発展と、英語 4 技能の育成を図る。
- イ：4 技能を様々な場面、様々な形で用いて英語に触れる機会を多くもつことを通して運用能力の向上を図る。その結果として、英語の学習に対する意欲を高め学力調査での英語の得点率向上を図り、併せて実用英語技能検定等の資格取得をめざす生徒を増やす。
- ＊3 年生 4 月の「学力生活実態調査」において英語の到達度 B ゾーン以上の割合を、令和 9 年度には 40%以上とすることをめざす。(R4：40.0% R5：25.7% R6：31.0%)
- (2) 国際感覚の育成
- ア：交流生の派遣や受入れ、手紙、オンラインでの交流等、多様な形態での国際交流を促進する。
- イ：異文化理解をテーマとする国内修学旅行の実施や留学生との交流等、国内において実施可能な形で異文化に触れる機会を創出する。
- ＊生徒向け学校教育自己診断における異文化理解の取り組みへの満足度 85%以上を維持する。(R4：75.2% R5：86.1% R6：90.8%)
4. 信頼される学校づくり（教員力と情報発信力の向上）
- (1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上
- (2) 教職員の働き方改革による時間外勤務削減
- (3) 開かれた学校をめざした、学校情報の積極的な発信
- (4) 中学生やその保護者に対する、芥川高校の魅力発信
- ＊生徒向け学校教育自己診断における教員の協力体制に関する肯定率は、今後も 87%以上を維持する。(R4：87.2% R5：88.5% R6：91.9%)
- ＊保護者向け学校教育自己診断における情報発信に対する肯定率を、令和 9 年度には 85%とする。(R4：80.6% R5：84.3% R6：83.3%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1. 自ら考え行動し、自律的・主体的に学びに向かい進路を切り拓く力を持った生徒の育成	1) 学力の向上 ア 確かな学力を身につけ好奇心を掻き立てられる授業を創るための、教職員が学びあえる環境づくり	ア・授業アンケートの振り返りによる授業改善 ・学校全体で相互授業見学を実施し、気づいた長所を見学シート等の利用により必ず伝えあう。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率 85%以上を維持 [86. 1%]	
	イ 言語活動の充実と、より効果的な ICT 機器の活用	イ・言語活動に重点を置いた校内研究授業を実施する。 ・ICT の活用に関するアイデアやツールを、クラウドサービス等を用いて共有・ストックし、より多くの教員が効果的に利用できるようにする。	イ・授業アンケートにおける授業満足度（興味・関心・知識・技能に関する生徒意識）85%以上を維持 [88. 2%] ・生徒向け学校教育自己診断結果における ICT 活用の肯定率 88%をめざす [86. 1%]	
	ウ 観点別学習評価の円滑な運用と自学自習力の育成	ウ・観点別評価により指導と評価の一体化をすすめ、生徒が主体的に学習し自らの学びを調整する力を育む。 ・長期休暇や休日の自習室利用の推進、週末課題等、自学自習力をつけさせるための取組を行う。	ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率 85%以上を維持 [85. 9%] ・1・2 年生 9 月の「学力生活実態調査」における休日の自主学習 2 時間以上の割合 20%をめざす [1 年 12. 2% 2 年 10. 6%]	
	2) 希望進路の実現 ア 望ましい 勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力を育むキャリア教育の推進 イ 個々の生徒の想いを受け止め希望進路に応じたきめ細かい進路指導	ア・「懂れる存在を見つけよう」をコンセプトに、卒業生や外部人材による進路講話やガイダンスを通して、社会に貢献する自分像をイメージできるようにする。 イ・個別懇談等により、一人ひとりきめ細かい進路指導を実施し、進路実現に向けて頑張り切れるよう支援する。また、活動記録を適切に残し活用する。 ・外部教育産業を活用して、学力生活実態調査の分析結果を各教科・学年団で共有することで、指導の振り返りと計画、面談等に生かす。 ・「進路のてびき」の有効活用や早期のオープンキャンパス等への参加奨励により、早い段階から希望進路実現に向けた意識を高める。 ・保護者向け進路講演会の実施や、学年・学級単位で実施した進路行事に関する保護者への情報提供に努める。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導（進路や生き方について考える機会の提供）への満足度 90%以上 [94. 6%] イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 90%以上 [93. 7%] ・保護者向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 80%以上 [81. 4%] ・希望進路達成率 85%以上 [87. 0%]	

2. 自己肯定感を高め他者を尊重する態度を養い、高い規範意識と人権意識を備えた豊かな人間力を持った生徒の育成	1) 体験学習の充実 ア 福祉ボランティア実習の充実	ア・保育実習及びその事前・事後指導を充実させ、福祉に対する意識をより高めるための機会とする。 ・高齢者疑似体験や障がい者との交流等、福祉ボランティアに関する体験学習の機会を持つ。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における福祉ボランティア等に関する肯定率85%以上を維持 [90. 8%]	
	イ 地域と連携した体験活動の充実	イ・地域主催の行事等への積極的な参加やボランティア活動、近隣の他校種との交流等を通じて、地域を愛し、地域に愛される体験の機会を持つ。	イ・生徒向け学校教育自己診断結果における地域交流の肯定率84%以上 [83. 4%]	
	2) 学校行事、部活動の振興 ア 主体性・協働性の涵養、地域とのつながりによるシティズンシップの涵養	ア・生徒が行事の立案や運営に主体的に関与して協働的に取り組み、やり切る経験ができるよう、サポートを強化する。 ・学校行事を地域や近隣施設との交流の機会とし、連携を深める。	ア・教職員向け学校教育自己診断結果における行事充実への工夫の肯定率90%以上を維持 [93. 7%]	
	イ 部活動の活性化	イ・行事において部活動部員の活躍の場を設け、学校全体で部活動を応援する雰囲気をつくり、入部率および継続率向上を図る。クラブ単位での外部連携を推進する。	イ・6月時点の部活動加入率75%以上を維持 [79. 6%]	
	3) 規範意識の醸成 ア自主的にルールやマナーを考え、守る生徒の育成	ア・全ての教職員が「あくたベース（生徒指導編）」に基づいた統一した指導を行う。 ・ルール・マナー・モラルを守ることが、皆が安心して安全に過ごせる場をつくることにつながることを伝えていく。 ・生徒たちがルール・マナーについて意見を表明する機会を創出する。	ア・懲戒件数5件以下 [4 件]	
	イ あらゆる機会をとらえての規範意識向上の働きかけ。挨拶がしつかりとでき、時間を守れる生徒の育成	イ・自らと身の回りの人を大切にすることがすべてにおいて優先するという日常的な指導を徹底し、交通安全指導や防災避難訓練、薬物乱用防止教室等様々な機会も利用して、規範意識の向上を図る。 ・遅刻指導を通して、時間を守り、学校生活を大切にする生徒を育てる。	イ・学校教育自己診断結果における生徒の規範意識の肯定率を、生徒向け 93%以上維持 [94. 5%]、教員向けを64% [61. 7%] とする。	
	4) 人権意識の向上 ア 一人ひとりを大切にし大切にされる人権教育の推進	ア・身近にある人権課題を見逃すことなく、全教員が一貫性のある人権教育を推進する。 ・保健室での聞き取りや教育相談委員会での情報を活用し、スクールカウンセラーや専門機関等と連携して、生徒、教員一人ひとりを大切にするために教育相談をさらに充実させ、生徒の成長を支援する。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率88%以上を維持 [91. 5%] ・生徒向け学校教育自己診断結果における気軽に相談ができる教員の存在の肯定率 70%以上を維持 [75. 3%]	
	イ 生徒、教職員が共に学び人権意識を高める	イ・人権教育計画に基づき、教科や特別活動等、学校教育活動全般を通じて人権教育を実施し、一人ひとりを大切にする教育を実践する。 ・生徒のみならず、教職員も人権に関する学校内外の研修に積極的に参加し、人権意識の向上を図る。	イ・教職員向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率90%以上を維持[91. 3%]	

3. 多様性や異文化を理解する態度を備え、豊かな教養とコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな視点で考え社会に貢献できる力を持った生徒の育成	1) 使える英語力の育成 ア 高大連携等「グローバル専門コース」の取組みの継続・発展と、実用性の高い英語力育成 イ 使える英語力の向上と、英語検定等の資格取得推進 2) 国際感覚の育成 ア 海外交流生の派遣や受け入れ等、国際交流の促進 イ 国内で実施可能な異文化理解の機会の創出	ア・グローバル専門コースにおいて、大学等外部機関との連携による特別授業や留学生等との英語での交流など、取組みを継続・発展させる。 イ・校外の英語力向上プログラムや人材の活用、授業等を通じて英語4技能を育成する。検定試験2次対策のサポートを行い、資格取得をめざす生徒を増やす。 ・グローバル専門コースの現在の取組みを、コース以外の生徒にも広げていく。 ア・海外交流校への短期語学研修派遣を実施する。並行して手紙やオンライン等での国際交流体験を促進する。 イ・異文化理解をテーマとする国内修学旅行、留学生やJICA海外協力隊経験者による講演など、国内において実施可能な異文化理解を目標とした学習を実施し、日本に住む高校生としての国際感覚に根差したアイデンティティを育む。	ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度90%以上を維持 [92.8%] イ・3年生4月の「学力生活実態調査」において英語の到達度Bゾーン以上の割合 34% [31.0%] ア・国際交流プログラムに参加した生徒の満足度 95%以上を維持 [96.4%] イ・生徒向け学校教育自己診断結果における異文化理解の取組みへの満足度 85%以上を維持する [90.8%]	
4. 信頼される学校づくり（教員力と情報発信力の向上）	1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上 2) 教職員の働き方改革による時間外勤務削減 3) 開かれた学校づくりと広報のための、学校情報と魅力の積極的な発信	・種々の取組みの充実と並行して、業務の軽減・円滑化・合理化・平準化・効率化を図り、教職員が連携協力し支え合う余裕を生むことで組織力の向上を図る。 ・「何かありますか」から「これやりますね」への移行を図り、お互いが声をかけ合い、助け合い、学び合う組織文化を醸成する。 ・次世代を支える教員が中心となって企画運営する、思いや疑問、悩み、課題がフランクに話せる教員の自主研修などによって教員力向上を図る。 ・ICTの活用、部活動時間の適切な設定と部活動指導員の活用、業務のスクラップによる軽減等、働き方改革を推進し時間外勤務削減を図ることにより、教職員の健康とワークライフバランスを守り、教材研究や生徒と向き合う時間、自主研修時間の確保に努める。 ・学校部活動方針（休養日等）の遵守及び全校一斉退庁日の遵守を推進し、時間外勤務の一層の圧縮を図る。 ・ホームページや学校新聞「芥川」、メールマガジン等のツールや、行事や学校説明会等の学校を公開する機会を有効に活用し、学校の情報や魅力をタイムリーかつ効果的に発信する。 ・SNSを活用し、日常の学校の様子や部活動の取組みを生徒の視点と言葉で発信していく。 ・「芥川高校の生徒・教職員の魅力」が詰まった学校長ブログを積極的に発信していく。	・生徒向け学校教育自己診断結果における、教員の協力体制に関する肯定率87%以上を維持 [91.9%] ・教員向け学校教育自己診断結果における、教育活動における問題意識や悩みが相談しやすい人間関係に関する肯定率 90%以上を維持 [93.6%] ・月 80 時間を超える時間外勤務教職員の延べ人数を引き続き減少させる[2月末まで延べ34人] ・教職員一人当たりの月間平均超過勤務時間を 30 時間未満とする。[1月末まで31.7時間] ・保護者向け学校教育自己診断結果における家庭への情報提供に関する肯定率85%[83.3%] ・オープンスクールおよび学校説明会への参加者 950 人以上。 [908 人] ・年間 90 本以上 [91 本]	